

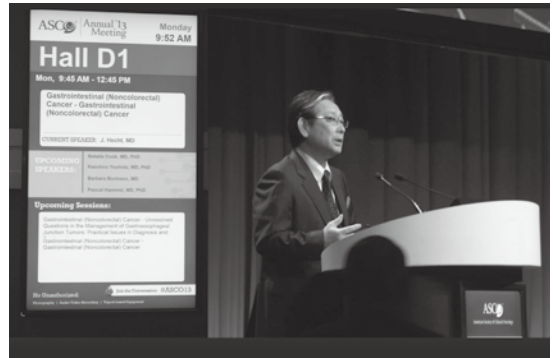
## なぜ臨床研究に参加するのか？

岐阜大学 腫瘍外科 吉田 和弘

Evidence based Medicine (EBM) の重要性が取りざたされてずいぶん時間がたちました。わが国でも多くの癌で臨床試験が、行われてきました。振り返れば多くの改善点などが指摘されてきました。ようやく近年になって世界にわが国からのデータを発信することができるようになりました。ここまで来るには、諸先輩方の多くの苦勞があったことは想像に易いといえます。臨床研究の指針や、倫理、体制の整備、プロトコルやデータの収集、データセンターの整備や統計解析。さらに加えて、これらを理解できる臨床医の積極的参画があってこそ、初めて満足できる臨床研究が施行できます。すなわち、新たな標準治療を書き換える準備ができることとなります。

私自身が臨床研究に参加しはじめたのは、大きな組織の中でたくさんの歯車の一つとして、全体を見渡すことができないまだ若かりし頃でした。一体何のためにやるのか理解できず、ただただCRFなどの記入や面倒なしぼりなどで、余計な仕事が増えるという印象でしかありませんでした。しかしながら時がたつにつれて、そのおもしろさと重要性が次第に理解できてきました。

すなわち臨床試験に積極的に参画する理由として、①ある意味で自分たちの存在意義を示すには積極的に登録することでアピールできる、②さらには中央で多くのコネクションや友人ができる、③論文や学会発表の場がインセンティブとして得られる、④プロトコルをバイブルとして、減量基準、中止基準、適格基準、有害事象の報告や管



理など、全体としてレベルアップするための最も近道である、⑤チーム医療の推進ができる、⑥標準治療を行っていますと言うけれども、そういう医療は最善で標準治療レベルであり、臨床試験に参加するということは、標準治療を越えた治療を求めるのであるので、最低限のレベルが標準治療ということになる、⑦臨床試験を推進できる施設こそが、その領域の専門施設であると考えられるなどがあります。

がん対策推進基本計画では、がん医療の均てん化が掲げられています。しかしながら、大都市などと地域での癌治療のレベルの均てん化は必要であるものの、地域の中での集約化は当然必要となってくると考えます。そこを核として周辺基幹病院でレベルアップをねらえる最も近道が臨床試験であると考えています。そして、地域から出てきた臨床上の疑問をその地域から新たな臨床研究に発展させることで、地方から中央へのエビデンスの発信ができればと思っています。われわれの医師の目標は何か。最良の、最先端の医療を提供するということはどういうことか。標準治療を行うばかりでなく、新たな治療を開発することも目標の一つであると考えます。それは基礎研究に基づいたデータから出す方法、そして臨床研究を通じて、臨床上の疑問点を解決する方法との二つです。いずれにせよ、医療を通じて社会貢献をすることがわれわれの使命です。私たちは標準治療を実行するだけでなく、標準治療を作っていく病院でありたいと思います。